

2009年(平成21年)12月15日(火曜日)

東京大学新聞 1面 第2492号

※東京大学新聞の許可を得て掲載しております。

無断で転載・複写することを禁じます。



総長とのダイスカッション

濱田純一総長は、1日に小柴ホールで「タフな東大生とは」という表題で講演をした。濱田総長は「タフさ」の意味やそれを身に付けるための行動について講演した後、小島憲道理事・副学長ら6人とダイスカッションを行った。その後の質疑応答では学生も活発に発言した。

2009年(平成21年)12月15日(火曜日)

東京大学新聞 2面 第2492号

※東京大学新聞の許可を得て掲載しております。

無断で転載・複写することを禁じます。

総長講演 「タフな東大生」とは

リスク負い意見通せ／他者への配慮も不可欠

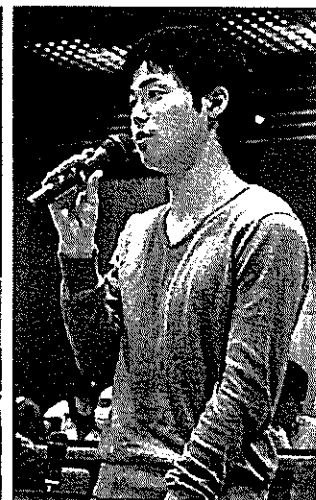
「タフさ」は多様な事情、言葉、価値観に学生時代に触れておくことで鍛えられる。いまの学生は、あえて異なった価値観や言語に触れる必要はない。しかし、社会に出れば外国人とも出会うことも多く、数々の多

●「タフさ」が必要な背景
東大生は知識の面では十分な力がある。しかし、「タフさ」が足りないから力を発揮できないと感じている。東大が国民の税金で運営されていることもあり、社会の役に立つ能力を育てることが必要。大学として、「タフさ」をどう育てるかを考えてゆく。

●「タフさ」とは、社会的な「コミュニケーション」の場においてのたくましさや、知識を使える力のことだ。知識が重要なのもちろんだが、それを伝えることができていない。社会に出れば、自分と価値観や人生観が違う人が多い。その中で自分だけでなく、人を納得させる力が必要。

●「タフさ」と多様性
「コミュニケーション」が双方向である以上は、相手に対する理解や思いやり、配慮も「タフさ」に含まれる。相手との考え方や経験の違いによって、うまく自分の意思が伝えられないときに、自ら正しいと思ったことを通すリスクを負うことで「コミュニケーション」の限界を超えていく。「タフさ」も必要。自分の強さを伸ばすときにも他人の力や、他人への思いやりが必要になる。

●東大生へ課題
来年度の予算編成について行政刷新会議の話し合いが持たれている。学生にも関係があるので、この問題をしっかりと考えてほしい。このテーマ自体あまり考えられたことはなく、解決策を考えるのは難しい。国の財源と、科学技術や若手研究者、学問の可能性のバランスを取れる方法を考える。これもタフさを身に付けるうえで大切なこと。



様性や、緊張に向き合う。東大生は受験という見出しの利く苦しさを体験しているが、これは目的や、方法が分かっていた。これから東大生がぶつかるとは見出しの利かない苦しさ。用意された道筋はない。
課外活動、社会活動はむしろ役に立つが、学問をすることも、世界の多様性をバーチャルに体験できる。それだけに溺れていいとは言わないが、「タフ」になるための基本と考えている。その中で自分の目標が見えてくれば良い。大学も多様性に触れる仕組みを考える。多様性に賢く対応するだけでなく、リスクを考えながら大胆に行動していくことも求められる。

予算縮減に反対声明

GCOE全拠点の代表

文部科学省による競争的
研究資金「グローバルCO
Eプログラム(GCOE)」

の全140拠点のリーダ
ーが3日小柴ホールで、来
年度のGCOEの予算縮減を

求めた行政刷新会議の事業
仕分けに対して声明を発表
した。声明では、ポストド
クターの現状とGCOEの
重要性を訴え、「経済状況
が厳しい今こそ、国家とし
て将来を担う人材への投資
を怠ることがあってはなら
ない」と表明した。

声明発表の記者会見に
は、200人近い若手研究
者が集まりGCOEの予算
縮減に対する反対を表明し
た。早稲田大学の学生は
『政府はこれ以上若手の
育成に力を入れない』とい

うメッセージとして受け取
った。若手の士気が下がる
ではないか」と話した。

2009年(平成21年)12月15日(火曜日)

東京大学新聞 1面 第2492号

※東京大学新聞の許可を得て掲載しております。

無断で転載・複写することを禁じます。